



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 13 (令和5年5月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youkyosenta@city.itami.lg.jp

★『夢中になって遊び、よく考える子ども』の育成を目指して

市全体の幼児教育・保育の質の向上をめざして開設された当幼児教育センターは、この春で4年目を迎えました。公私立を問わず訪問依頼を頂き、保育環境や子どもの育ちなどについて共に考え合うことも増え、繋がりやの深まりを感じうれしく思います。

ところで幼児教育・保育の「質」とはどのようなもののでしょうか。それは数値や目に見えにくいものであるゆえ、一人一人の価値観により「質」の観点は異なるかもしれませんが、私は、本市における「質」とは、伊丹市幼児教育ビジョンの「育てたい子ども像」である『夢中になって遊び、よく考える子ども』が育つ保育の環境があること、そしてそのような子どもを温かなまなざしで育む保育者がいる、ということだと考えます。その手がかりの一つとして、昨年度各施設に「伊丹市保育環境構成のてびき」をお配りしたところです。

幼児教育センターでは今年度も、喫緊の課題やニーズに応じた研修会や幼児教育アドバイザー訪問をはじめとする様々な事業を通して、未来を担う子どもと日々向き合っておられる保育者の皆様とともに考え合い、歩んでいきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

(幼児教育センター長 岡本 真弓)

★新任 幼児教育アドバイザー紹介

どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、新たに幼児教育アドバイザーが着任いたしました。

中務 葉子 (なかつかさ ようこ : 前 北保育所長)



★幼児教育センター 令和5年度の主な取り組みを紹介します

①幼児教育研修会 全14回 開催予定

今年度は、連続講座を2つ企画しました。

*昨年度(R4)は、幼児教育研修会等と幼児教育シンポジウム合わせて、のべ 1,327 人の保育者をはじめとする皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

その1 保育環境の構成について

「伊丹市保育環境構成のてびき」を活用しての3回シリーズの研修です。参加申し込み受付中です。

その2 個別の支援を必要とする子どもの保育について

4回シリーズの研修です。4回の内2回は、施設の実践発表を受けて、講師から助言をいただく内容を予定しております。

昨年度同様、小学校の先生と共に学ぶ幼小接続研修も2回、予定しております。

今年度は対面での開催が増えますが、オンラインも活用し、より多くの方に学びの場を提供できるように計画しております。ぜひご参加ください。

②幼児教育シンポジウム 12月3日(日) 開催予定

今年度は講師として、お茶の水女子大学 アカデミック・プロダクション寄付講座教授の宮里暁美先生と、大阪総合保育大学教授 瀧川光治先生をお招きしております。

いたみホールにて、午後開催予定です。こちらもぜひ、ご参加ください。

③幼児教育アドバイザーによる施設訪問

コロナもようやく落ち着きつつあり、今年度はたくさん足を運び、つながりを深められればとアドバイザー一同、意気込んでいます。

さしあたり、5月～6月にかけて、昨年度のアンケート結果のお届けとご挨拶を兼ね今年度の担当アドバイザーがお伺いします。

その際、***保育や環境の構成について *子どもの発達や保護者の対応について**

***職員について *インクルーシブ教育・保育について *幼小接続について**

等、気がかりやお悩み、ご相談があれば、よろしければ是非お聞かせください。「子どものよりよい成長」を中心に据え、よりよい方向性につながるよう共に考え、サポートさせていただきます。(随時、電話や来所での相談も受付けております。)

④出前講座の実施

保護者対象の子育て研修会、子育て相談、就学前施設に関する内容の講座、園内研修会のコーディネート等など、各種受け付けます。お気軽にお問合せください。



以上の取り組みを中心に、取り組んでまいります。どんどん活用してください。



★おススメ保育専門書



「乳児の
知的教育」
世界文化社
平山 許江 著

*「0,1,2歳児の教育」のポイントを解説。子どもに求められる知的教育は、子どもが本来持っている「知りたい、やりたい」という気持ちをじょうずに引き出すように周りの環境を整え、刺激を与えることです。

将来の学習意欲の基礎を培うために、保育者はどうかかわり、どんな遊びを提供すればよいか、豊富なイラストを交え見開き完結で分かりやすく紹介しています。

保育制度改革後、ますます重視される「保育の質の向上」のための必読書。

「ひっくりカエル！」 小学館

あんべひろし・作 うちだこーいちろう・絵

*マイナスをぱらすにカエル！この絵本を読んで、心ほっこりさせながら「私はOK！あなたもOK！」とマイナスをリフレーミング(視点や物事の枠組みを変える)して、多様性を尊重する余裕をもって子どもや保護者と向き合しましょう。



★アドバイザー通信

4月当初、ある幼稚園を訪問しました。

入園間もない3歳児の中には泣いている子どももいましたが、その園ではリュック、帽子の片付けを5歳児が手伝いに来てくれました。また外遊びでは、3・4・5歳児と一緒に遊ぶので、年上の子がしている遊びを見て遊びたい気持ちになり、泣き続ける子どもはいませんでした。

また、室内遊びをしている時に、頃合いを見計らってお茶を飲むように一人一人に声をかけたり、トイレは園庭に出る時に行きたい子どもだけ誘ったりしていたので、子どもたちは遊びたい時にすぐ取り組めていました。

これまで家庭で、自分のペースで過ごしてきた子どもたちが、まずは「幼稚園で遊ぶのって楽しい」という思いをもちつつ、無理なく集団生活に慣れていくことができるよう、家庭での生活から集団生活の接続も、家庭の背景や個々の発達に応じて、この園のように、滑らかなものであるとよいですね。

(幼児教育アドバイザー 筒井)